

放課後子ども教室



今回の訪問(2019年8月26日)は「ばんげ南っ子クラブ」です。

- ・開設年度・・・平成25年度
- ・主な活動・・・高校生との花壇作り・整備
- ・活動回数・・・年間70回 金曜日
- ・体験学習、スポーツ、ゲーム
- ・対 象・・・小学校1年生～5年生 (53人)
- ・わんぱくクラブと合同活動

教室継続のために 少しずつ新しいことを ～児童クラブとの連携・安全管理～



坂下中央公民館へ車を走らせていると、横断歩道にたくさんの子どもたちが信号待ちをしていました。聞くと、この子ども達は児童クラブ(通称わんぱくクラブ)の子どもたちです。坂下中央公民館で行っている放課後子ども教室と連携しながら本日の活動と一緒にするというのです。たださえ活動人数も多く、放課後子ども教室と児童クラブの子どもと合わせて80名以上になりましたが、大きな混乱もなく、プログラムに参加できました。本日のプログラムは、福島大学の児童文化研究会による『手影絵・影絵劇・手遊び』です。子ども達はきらきらした目で観ていました。放課後子ども教室と児童クラブが一体となつてのこの新しい取組は、今後の教室の継続にも大きなヒントです。「役割分担と安全管理をしっかり行い、場所さえあれば、年に数回は可能かもしれない」とコーディネーターの福地さんが話してくれました。



安全管理に活動ボードを活用



自分で、活動ボードに「参加しているかどうか」ネームプレートを移動させます。外、研修室、和室図書館など、活動場所が多いため、各場所に活動指導員を配置しています。

自分がどうやって帰るのが、ネームプレートを移動させることで、活動指導員に伝えることができます。

活動終了後はネームタグを返却します。



教室と保護者の間での連絡ファイル。一人に1ファイルです。ファイルの中身は月の予定や終了時刻、持ち物のお知らせと、保護者との連絡用紙。連絡用紙にはお迎えの時刻を記入する欄や連絡欄があります。人数が多いので、連絡ファイルで保護者とのやりとりをしています。特に下校の安全管理に有効です。



活動人数が多くなることで心配なのは安全管理です。ばんげ南っ子クラブの安全管理員や活動指導員はあくまでも見守り重視、口を出しません。でも、命に関わることは、しっかり指導します。子どもが自分自身の危険回避能力や危機意識を高めてもらいたいと考えているのだそうです。遊んでいる子どもが自然と「危ないよ！」と声を掛け合ったり、手を差し出したりしている姿があちらこちらで見られました。「自分で自分を守る力」を育成中です！

